

## 48. 発達障害児とその保護者への支援の検討を基に、すべての子どもへの支援に向けた方策の研究

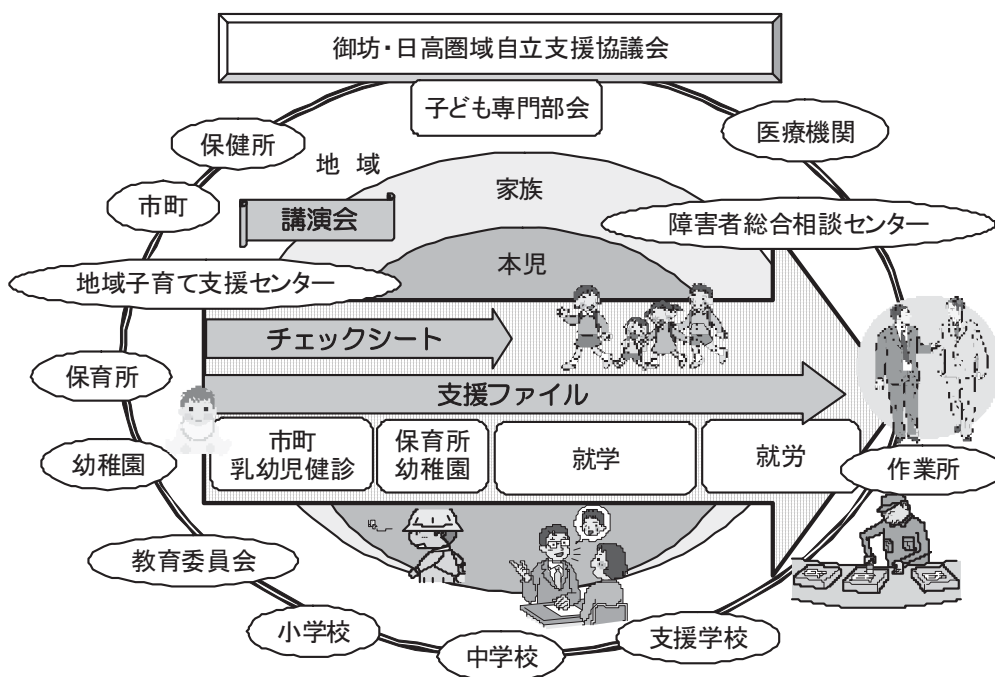
- 竜田 登代美（御坊保健所）
- 辻村 由佳（旧御坊保健所 現海南保健所）
- 岩瀬 和浩（旧御坊保健所 現紀南児童相談所）
- 中橋 淳子（御坊・日高障害者総合相談センター）
- 野尻 孝子（御坊保健所）

### 【目的】

発達障害児等は、保健・福祉・医療・教育・労働等の関係機関から包括的な支援を必要とする。関係機関は、情報の共有化を図り連携のとれた継続的な支援が重要である。さらに、発達障害児だけでなく、アレルギー等の病気を持っている子ども、長期療養児や不登校・引きこもり等を含めたすべての子どもや家族への支援が必要であることから、本研究では、すべての子どもが活用できる支援ノートの作成について検討することを目的とする。

### 【方法】

- 1 「御坊・日高圏域自立支援協議会」の「子ども専門部会」を開催し、すべての子どもが活用できる支援ノートの開発
- 2 幼児健診時及び保護者の問診によるチェックシートの開発
- 3 支援ノートを御坊・日高圏域内で試行的に使用
- 4 地域における保健師等専門職や保育所・幼稚園・学校等の関係者と保護者との合同講演会を開催



## 【結果】

### 1 支援ノート「すこやかファイル」（試行版）を作成

「すこやかファイル」（試行版）は、それぞれのワーキンググループ（①保健所及び市町保健師、②保育所・幼稚園及び小学校・支援学校等支援者、③障害者総合相談センター・地域活動支援センター）で検討し、さらに関係機関で構成する「御坊・日高圏域自立支援協議会・子ども専門部会」で検討したうえで作成した。

内 容：保護者が、子どもの成長発達を記録し、支援者に見せまた、記入を促すことによって情報を共有し、保護者自身が活用できる支援ノートを作成

目 次：基本情報

プロフィール

乳幼児期の発達の記録（まとめ）

健康診査等の記録

所属の記録

けいれん・ひきつけ

アレルギー

喘息（ぜんそく）

服薬歴

予防接種歴

病歴

入院治療歴

相談・発達相談の記録

乳幼児期（0歳～小学校入学まで）の記録

0歳～6歳の年齢別シート（保護者用・支援者用）

小学校～高校までの記録

小学校学年別シート（保護者用・支援者用）

中学校学年別シート（保護者用・支援者用）

高校学年別シート（保護者用・支援者用）

関係機関一覧

対 象

- (1) 乳幼児期：御坊保健医療圏の全ての子ども
- (2) 小学校～高校期：全ての子ども（但し、保護者や支援者の判断による）
- (3) 成人期：発達等につまずきのある者で要支援者

記録の管理

- (1) 対象者の保護者
- (2) 成人期においては本人も含み、支援者と話し合って検討する。

2 幼児健診時及び保護者の問診によるチェックシートの開発

「すこやかファイル」（試行版）の中に保護者が実施するチェックシートを挿入し、保護者がチェックし、気になれば、市町保健師に相談する。

- (1) 1歳6か月
  - (2) 4歳
  - (3) 5歳
  - (4) 6歳
- } 市町での健診は3歳児健康診査で終了するため保護者が実施

3 支援ノート「すこやかファイル」（試行版）を御坊・日高圏域内で試行的に実施し意見を聴取

- (1) 実施時期 平成23年3月～平成24年3月
- (2) 対象者 管内市町：乳幼児55名 小中学生15名 計70名
- (3) 保護者及び支援者の意見の聴取 平成23年8月

【保護者意見】

よい点	改善すべき点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・書きやすさや印刷のしやすさを考えるとこの大きさがよい。</li> <li>・バインダーとクリアホルダーは効果的である。</li> <li>・全ての子どもの記録として残せるので、全員が書くことは意味がある。</li> <li>・母子手帳に書ききれないのでよい。</li> <li>・今までの様子や育ちがファイルを見れば分かる。</li> <li>・支援者（担任の先生や主治医）に見せることで理解してもらえる。</li> <li>・先生とのコミュニケーション手段として活用できる。</li> <li>・担任の先生が替わる度に同じことを説明してきたが、これを読んでもらうことによって理解してもらえる。</li> <li>・住所が変わっても活用できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち運びにくい。</li> <li>・パソコン入力できればよい。</li> <li>・全員に配布しても大半の親は使わない。</li> <li>・記録は苦手。面倒くさい。忙しい。</li> <li>・母子手帳と重なる部分がある。</li> <li>・支援者に依頼しにくい。</li> <li>・先生の負担大きい</li> <li>・乳幼児期まででよい。小学以上は不要。</li> <li>・子どものマイナス面は正直書きにくい。自由記載がある方がよい。</li> <li>・時系列に書く欄が欲しい。</li> <li>・チェックシートは、健診があるので不要ではないか。気になるところがあれば、出来ないところがあれば心配しすぎてしまう。</li> </ul>

【支援者意見】

- (ア) 全ての子どもとするなら母子手帳を充実する方がよい。

- (イ) 支援者として差し障りのないことしか書けない。「出来ない」部分は記入しづらい。
- (ウ) 親が詳しく書けば、あえて支援者の書く必要はないのではないか。
- (エ) 小学以上は支援者の用紙は必要時に入れる。
- (オ) 記録として残ることに戸惑いと責任を感じる。
- (カ) 支援者が書く必要があれば、十分浸透させて、書き方の要綱等必要である。
- (キ) 健診の場でチェックする余裕がない
- (ク) 育ちの記録として重要である。特に支援学校入学時に今までの記録がない児童が多い。
- (ケ) 保護者と支援者の「気づきの差」があるため、保護者の思いが理解でき、支援内容を改善する等、このファイルは大変役に立つ。
- (コ) 気になる子どもだけに配布するには「何故うちの子だけ」と感じてしまう可能性がある。対象は全員にした方がよい。

#### 4 講演会の開催

##### (1) 前向き子育て講演会（平成22年11月30日）

～トリプルPを中心に、子育ての悩みを軽減し、子育てに自信が持てるヒントを発見するための講演会～

講師 家本めぐみ（NPO法人トリプルP JAPAN）

対象 乳幼児の保育者と支援者

要保護児童対策地域協議会構成機関

参加者 30名

保育ルーム設置



##### (2) 発達障害児支援研修会（平成23年1月15日）

講演1 「食物アレルギーについて」

講師 社会医療法人黎明会北出病院小児科医 島津伸一郎

## 講演2 「地域で出会う気がかりな子の理解と対応」

～保護者支援と保育者支援～

講師 高木 恵子（京都基督福祉会 洛西愛育園長）

対象 幼稚園・保育所等関係者及び支援者

参加者 43名

### 【考察】

支援ノート「すこやかファイル」（試行版）の作成については、ワーキンググループで、それぞれの思いや意見を聞いた上でまとめ、「御坊・日高圏域自立支援協議会・子ども専門部会」の承認を得て試行実施に至ったことは、広域的な支援体制の充実整備及び、連携強化につながった。さらに、試行実施後約6か月後に保護者及び支援者の意見を聞いたことにより、全ての子どもを対象とすることの必要性を確認することができ、本格的な導入に向け、見直し改善することができる。

今後、管内市町の全ての子どもを対象に、支援ノート「すこやかファイル」を導入する予定であるが、配布時期の検討や活用方法を保護者だけでなく多くの支援者の理解を得るために、「御坊・日高圏域自立支援協議会・子ども専門部会」の構成機関を中心に周知徹底を図り、出生届・乳幼児健康診査・講演会等を利用し積極的にPRして行く必要がある。

さらに、導入後においても定期的に見直し、より効果的で実用的なものを開発していきたい。

### 【経費使途明細】

講演会通知（11月30日講演会分メール便）	5,520円
一時保育料（11月30日講演会分）	6,000円
講演会講師謝金・旅費（11月30日開催分：家本めぐみ）	30,000円
講演会通知（1月15日講演会分メール便）	2,880円
講演会講師謝金・旅費（1月15日開催分：島津伸一郎）	10,000円
講演会講師謝金・旅費（1月15日開催分：高木恵子）	30,000円
講演会講師昼食代（1月15日開催分：1,500円×2人分×消費税）	3,150円
講演会場使用料（御坊市公民館暖房代）	1,680円
PDF作成ソフト「いきなりPDF」（6,216円＋代引き手数料260円）	6,476円
支援ノート印刷代（1,400円×140冊×消費税）	205,800円
計	301,506円